

令和6年度 都立小川高等学校 学校経営計画

1 目指す学校

(1) スクール・ミッション

何事も忍耐強く努力し、社会の変化に柔軟に対応する力と、社会貢献できる心の育成を教育目標とし、グローバルな視点をもって地域のコミュニティを支え、社会に貢献できるよう他者と協働するといった教育活動を通じて、一人一人が能動的に学ぶ姿勢を養い、新しい価値を創造できる生徒を育成します。

(2) 教育目標

ア 何事も忍耐強く努力し、あきらめない心の創造

イ 礼節と思いやりで満ちた人間関係の構築と、社会貢献できる心の育成

ウ 社会の変化に柔軟に対応する力と国際社会に向けて積極的に行動する力の推進

(3) スクール・ポリシー

【グラデュエーション・ポリシー】

(1) 実社会で活動するのに基盤となる学力・人間力・体力

(2) 知識や体験を状況に応じて活かす能力

(3) 自己の意見を発信する能力と他者の考えを理解する力

【カリキュラム・ポリシー】

(1) 生徒の学ぶ意欲を高めるため、授業改善に努め、生徒一人一人の学力を高める

(2) 3年間を見通した組織的な進路指導計画のもと、生徒一人一人の能力を発揮させる進路実現を図っていく

(3) 学校行事やホームルーム活動、生徒会活動、部活動等を通して、主体性、協調性、責任感を高め、心豊かで国際社会を生き抜くたくましい生徒を育成していく

【アドミッション・ポリシー】

(1) 学校行事や部活動に積極的に取り組み、学校生活を中心に過ごす意志の強い生徒

(2) 主体的に授業に取り組み、学力を向上させようとする生徒

(3) 規則を守り、将来社会人としてのマナーを身に付けようとする生徒

(4) 進路実現に向けて、チャレンジし続けようとする生徒

(5) 自己の可能性を広げるために行動し、社会貢献をしようとする生徒

(6) 国際社会に積極的に参加しようとする意欲のある生徒

Ⅱ 中期的目標と方策

1 基礎学力向上・定着に向けた学習指導の充実を図る

- ・生徒の実態に基づいた学力の組織的把握と指導方針の共通理解を図り、教員研修会の実施、教科会による授業評価、定期考査・模擬試験等の結果分析を実施して、組織的な学力向上の仕組みを構築する。
- ・「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業研修に努める。教員相互の授業見学を充実させるとともに、教科会で共有するなどして、思考力・判断力・表現力を向上させる授業改善につとめる。
- ・資格・検定試験受験の機会を学習指導の一環としてとらえ、全員受験ができる体制づくりをし、学力向上、進路実現の取組につなげる。
- ・総合的な探究の時間において、組織的な体制を定着し、計画的に取り組めるよう、内容をブラッシュアップし、質をあげる。
- ・国際理解教育を推進し、グローバルな視野を育て地球規模で物事を捉え、考えることのできる生徒の育成および日本の伝統文化を理解するとともに他国の文化を受け入れる態度を育てる。

2 生徒の自主性、自発性を育成する特別活動や部活動の推進

- ・本校が伝統的に培ってきた「生徒の自発的な取組を大事にする」ことを教職員が理解し、生徒委員会の育成を図ることで、達成感、協調性を醸成する。
- ・部活動等に所属することで、努力し、あきらめない心や継続する力を醸成し、達成感、自己肯定感、自尊心を培う。

3 生徒の心身の健康の保持増進に努め、安心・安全な学校生活の実現に努める

- ・睡眠、運動、食事、休養のバランスの取れた基本的生活習慣の確立を徹底し、健康で充実した学校生活を送れるよう、教科と健康指導等の特別活動を連携させ、健康維持と体力の向上を組織的に図る。
- ・生徒支援の体制について、校内委員会を中心とした組織的機能を充実させる。きめ細やかな生徒の対応と観察による早期の発見、生徒や保護者が相談しやすい体制づくり、SC・YSW等外部人材との連携を強化し、具体的な策を講じて共通理解のもと対応する。

4 組織的な進路指導体制と指導内容の充実

- ・進路、進学多様校の本校の実態に応じた体系的なキャリア教育全体計画を策定し、教職員全体の理解のもと総合的な探究の時間・進路行事を中心に、生徒一人ひとりの第一進路希望実現を目指す。
- ・3年間の計画に基づいたキャリア教育の質的改善を常に図りながら、生徒の興味・関心を促し、適性に気づき、自己有用感と自己肯定感の醸成を支援できる進路行事の充実を図る。

5 本校の計画的・継続的・効果的な魅力発信による募集・広報活動の推進

- ・募集、広報活動の推進に向け、従来の活動を検証し、ホームページ・説明会等、有効な方策を検討し具体的改善を図る。
- ・日常の教育活動の随時発信や生徒主体の広報を中心に、本校の教育活動の実際を幅広く周知することで本校の理解を一層促進し、目的意識を持って本校を第一希望とする生徒の確保を目指す。
- ・学校の施設を公開し、また、近隣との交流を活発化させ、本校への理解を深めてもらう。

6 学校運営の積極的な検証・改善と組織力の強化・推進

- ・主幹教諭を中心とした組織マネジメントの定着と、教員間の風通しの良い前向きな組織体制づくりを推進する。
- ・メリハリのある学校運営を目標に、共通理解や情報共有を大切に、教職員相互の協力体制を構築する。
- ・効率化する面と時間をかける面を整理して進め、学校運営の質的向上とライフ・ワーク・バランスが実現できる職場環境づくりを目指す。
- ・学校運営連絡協議会や地域住民等の意見等を学校経営に活かす。学校評価等を生かして、改善点に対し、迅速・適切に取り組み、信頼される学校、開かれた学校を目指す。
- ・学校図書館の一層の活用により、読書習慣を身に付けさせ、学習指導と結びつける取組を通じて、言語活動の充実および主体的な学習態度や知的好奇心を育成する。
- ・経営企画室の経営参画、機能の充実を図る。予算の執行率を高めることで予算の有効活用につなげ、学校運営の充実に努める。施設・設備の修繕、増改修等を計画的に進める。
- ・授業料及び学校徴収金について、適切な運用管理を行う。

Ⅲ 今年度の取組目標と方策

下線部＝全教員による必須取組事項 ★重点を置いて実施

今年度の教育活動の目標	重点目標と方策
1 学習指導 【目標1】 組織的な補習・講習の充実により、基礎学力の定着、伸長を行うことで進路選択の幅を広げ、希望進路の実現を達成する。 【目標2】 継続的な課題配信等、自主学習、家庭学習習慣の定着を図るための方法を検討し、実施する。 【目標3】 教科会を中心とした「教科マネジメント」の構築を行い、学力の一層の定着を図る。観点別評価の適切な実施とPDCAサイクルによる指導と評価の一体化を図る。 【目標4】 資格・検定試験受験の機会を学習の一環として確保し、学力向上の取組につなげる。 【目標5】 司書教諭、学校図書館専門員を中心に、教科と連携して言語活動の活性化を図る。 【目標6】 「生徒による授業評価」の結果を分析し、授業に反映させる。授業力向上のために指導内容と方法の検証と改善・工夫等を行う。	【方策1★】 「学習サポート委員会」により、長期休業中、放課後等の補習・講習の効果的な実施について方向性を協議、提示し、教科会で講座と内容を検討し、計画的に実施する。 【方策2】 効果的な授業の課題の内容、週末課題について、教科・学年の両方で検討し、促進する。 【方策3】 自習環境の整備を進め、活用の促進を図るため自習スペース等の運用を検討する 【方策4★】 観点別評価を活用することで指導と評価の一体化を図り、授業の工夫や改善について校内研修や教科会で共通理解を図り、実践に結びつける。 【方策5★】 学力の向上と、進路実現の選択肢を増やすため、教科を中心に資格試験を受ける機運を高める。特に英検については、できるだけ全員が1回は受験でき、校内で実施できるよう準備することで授業と関連させて目標を持たせ、学力向上につなげ、進路選択の幅を広げる。 【方策6】 図書館運営委員会を中心に、国語の授業や総合的な探究の時間を活用し、学校全体でビブリオバトルに取り組む等、読書活動を推進し言語活動の充実につなげる。 【方策7★】 年3回以上、教員間の授業見学を実施する。特に初任者から3年次までの研究授業の協議会を設定し、見学者も参加して授業改善、教科指導の学びの場として充実させる。見学者は報告書でフィードバックする。 【方策8】 教師道場や他校の指導教諭の授業を積極的に見学したり、オンライン研修を活用したりして授業の改善を図る。 【方策9★】 一人1台端末の授業での活用を効果的に選択し、取り入れ、思考力・表現力等を高める学習活動を工夫するとともに、協働的な学習の定着を図る。 【方策10★】 教科会で定期考査、学力調査問題、課題

【目標 7】個別最適な学び、協働的な学びを促進し、生徒が ICT を活用しながら自ら学習を調整して学ぶことができるようにする。 【目標 8】擬試験等の結果を教科会で検討し、到達目標を明確化した上で、教科指導の改善に努める。 【目標 9】「総合的な探究の時間」により、生徒自身が探究的なものの見方、考え方を身に付ける。主体的に課題を設定し解決する学習を通して、自己の在り方・生き方を考える資質・能力を育成する。併せて、異文化体験等を通して、グローバルなものの見方を養う。	テスト、模試、「生徒による授業評価」を分析し、課題把握と改善に活かす。 【方策 11★】「総合的な探究の時間」について、進路部を中心に、その目的を明確にし、3 か年の実施計画を策定、共有した上で組織的に実施する。 【方策 12】キャリア教育や地域に関する探究等の体験活動については、大学教授や外部人材を効果的に活用して理解を深める。 【方策 13】発表する機会など、アウトプットする場を設け、自他理解、課題解決、在り方・生き方等について主体的に考える力を育成する。 【方策 14】国際理解教育として、オンライン交流など交流機会の提供、都の研修機関の活用、留学等の支援を通じて、国際社会への興味関心を高める。
2 生活指導 【目標 10】基本的生活習慣の確立 規律正しい生活習慣や規範意識の向上のために、集団生活のルールやマナー等について教職員全員で共通理解をし、指導する。 【目標 11】自転車通学が多くを占める本校の実態に即した指導を検討するとともに、取組の充実とヘルメット着用率の向上に向け具体策を工夫する。 【目標 12】情報モラルについて、学校教育の多様な場面で考えさせる取組を行う。そのことにより、規範意識の醸成と自己と他者を尊重する態度を育成する。 【目標 13】生徒の問題行動に関して早期発見と早期対応に努め、生徒が安心して学校生活を送れる環境を維持する。 【目標 14】清掃・美化 小川高校の環境美化の意識を高めると共に、近隣の清掃美化や花壇の整備等に取り組み、地域貢献の姿勢を醸成する。	【方策 15】学年が中心となり、粘り強い遅刻指導を実施して時間管理、基本的生活習慣の獲得と維持を徹底する。 【方策 16★】生徒保健部により、服装指導の指導方法について統一見解を整理したので、自律的に改善できるように、教職員全員での声掛けを実践する。 【方策 17】生徒保健部を中心に、自転車登校生徒の生命の安全確保のための具体策を講じる。特にヘルメット着用率を向上させる取組を進める。 【方策 18★】「小川高校 SNS ルール」の周知・徹底などルールやマナーについて、生徒会等、生徒主体の取組の推進を行う。 【方策 19】いじめの疑いがある場合には、すぐに「いじめ対策委員会」を招集し、組織的に早期対応と解決策を講じていく。必要に応じて外部委員の招集を行い検討する。 【方策 20】美化委員を中心に、生徒による美化の推進を進める。また、生徒会やボランティア部による花壇整備等を継続することで、本校の環境整備を担う一員である意識を高め、自己有用感を醸成する。
3 特別活動・部活動 【目標 15】生徒会を中心にした主体的な取組を支援し、学校行事を充実させる。 【目標 16】特別活動や部活動を通して、日本の伝統文化を理解し、発信する取り組みを積極的に行う。 【目標 17】部活動に所属する意義を理解し部活動に所属することで、継続する力を醸成し、達成感や自己肯定感、自他尊重の精神を養う。学習と部活動が互いに刺激となり、生徒の成長を促せる指導を行う。	【方策 21★】生徒が、自発的・主体的に取り組めるよう指導し、委員会生徒が自身の手で創り上げる実感を大事にする。生徒がお互いに協力し合い、成功を感じられるような行事の質的充実を図る。 【方策 23】行事や部活動等で伝統文化理解教育に取り組む。文化祭等において、日本文化を紹介する機会を設ける。 【方策 24】部活動方針について保護者・生徒と顧問で共通理解を図り部活動を活性化させる。 【方策 25★】部活動ガイドラインをもとに活動を実施し、学習活動と部活動が相乗効果として活きるよう適切な活動時間管理や休息等の確保を行う。 【方策 26】日々の取組、地域や中学校との交流等、部活動を積極的に評価し見直しを行う。
4 健康づくり 【目標 18】健康の保持増進について、学校と家庭、地域関係者が連携し、生徒が健康で安心・安全に学校生活を送れるよう環境を整えとともに、生徒が自主的に健康維持ができるよう指導の工夫を行う。 【目標 19】授業や体育祭、マラソン大会等の行事、部活動等、教育活動全体で基礎体力の向上を図る。	【方策 27】保健だよりや外部人材を活用した講話等で、生徒への意識啓発や具体的な健康維持の取り組み方の提示を行い、自身の体調変化に気づいたり、健康に対する意識を高めたりする。 【方策 28】保健体育、家庭科、特別活動等で、健康増進について日常の実践につながる指導を行う。体育では、授業に筋力トレーニングや柔軟性を高める運動等を取り入れ体力向上につなげる。

【目標 20】教育相談体制として「生徒支援委員会」を中心に全校での教育相談体制を確立する。組織的・計画的に取組を促進することで、自他の生命を尊重し、安定的に心身の状態を維持しながら学校生活が送れるように支援する。

5 進路指導

【目標 21】生徒の実態や新大学入試、共通テスト等に対応した、進路ガイダンスのプログラムを充実させる。

【目標 22】新大学入試、新学習指導要領完全実施に対応した教員の進学指導力と教科指導力を高め、相乗的に生徒に還元して、生徒の進路希望を妥協させず実現ができる指導、支援を行う。

【目標 23】生徒一人ひとりの学習状況や進路希望状況を踏まえた3年間を見据えた進路面談の充実を図る。生徒、保護者とともに将来について考え、進路に対する意識を喚起させることで「第一志望」の進路実現を支援する。

6 募集・広報活動

【目標 24】従来の募集活動の振り返りを行い、本校に関する情報を的確に・迅速に、かつ興味を持ってもらえるよう発信する。本校の認知を高めるとともに、本校の理解を深めてもらうことで、第一志望の受検生を確保する。

【目標 25】外部説明会、学校説明会・学校見学会等の機会を積極的に利用し、組織的・計画的に広報活動を推進し、参加者を増やすことで、受検生に本校への理解を深めてもらう。

【目標 26】文化・スポーツ等特別推薦では、技能の高さはもとより、本校で継続して学業や部活動に励み、リーダーシップを発揮し、本校の活性化や他の生徒の模範となる生徒の育成につながる受検生確保に尽力する。

7 地域交流等

【方策 29】体力テストのデジタル化に伴い、事前・事後指導を充実させたり、データをもとに具体的な到達目標を設定させたりして取り組ませる。

【方策 30★】「生徒支援委員会」を中心に、全校で情報共有や教育相談に取り組む。スクールカウンセラーやエリアネットワークを有効活用し、発達課題のある生徒に対する具体的対応や継続的対応を検討し、全教職員で共通理解を深め、実践する。

【方策 31】授業やホームルーム、行事等により「命の安全教育」を推進し、社会生活において生命を尊重する・入権を尊重する精神を養う。

【方策 32】大学等、外部機関の有効活用により、進路ガイダンス、進路説明会に計画的に取り組む。

【方策 33】進路部と学年との連携を密に図り、各進路行事、面接指導、オープンキャンパスへの参加等の取組を組織的に効果的に行う。

【方策 34★】進路部が中心となり、模試データ等の進路情報を集約・分析し、全教員および学年単位での模試分析会を実施する。その結果を全教員で共有し、教科指導や進路指導等に生かす。また外部機関等も有効に活用して情報提供できるよう工夫する。

【方策 35】総合型選抜入試受験者等に対する情報提供を行い、小論文・志望理由書等の指導を充実させる。入試制度や方法について確認を十分に行い、適切に指導する。

【方策 36】ハローワークや東京仕事センター等と連携した職業体験・しごとセミナー・職業紹介・面接練習および職場訪問等で、就職希望の実現を支援する。

【方策 37★】担任は、情報共有した内容やデータを有効活用して、1年から各年次に応じて適切に二者面談、三者面談等の進路指導を行う。三者面談に関しては2年で1回を目標に、3年は必ず1回は実施して、生徒、保護者との共有を行う。また、保護者会での進路関連の情報提供も随時行う。

【方策 38】昨年度実施のアンケートにより学校評価等の検証を行う。そのうえで、学校の特色を全教職員と共通理解するとともに、効果的な発信方法、ホームページの内容や更新頻度の一層の充実、学校案内の構成のリニューアルを進める。

【方策 39】学校説明会用パワーポイントやDVD、学校魅力PR動画の作成、東京都PR事業を有効活用し効果的で魅力ある発信につなげる。

【方策 40】町田市を中心に、八王子、日野、多摩南部等の説明会参加や塾訪問を行い、生徒獲得の地域の開拓を行う。

【方策 41★】教務部募集対策担当を中心に立案し、学校全体で協力し、学校見学・説明会、体験授業、部活動体験等の募集活動に取り組む。生徒の姿を積極的に見てもらえるような説明会の実施を工夫する。

【方策 42】生徒主体の説明会を継続して、本校の生徒のありのままの姿を見ていただき、本校の良さを生徒からも発信する。

【方策 43】文化・スポーツ等特別推薦を実施する部の顧問を中心に、推薦の趣旨を理解し、部活動での活躍はもとより、本校の教育活動のリーダーとしての役割を果たして活性化できる生徒の募集に努める。

【目標 27】「地域探究推進事業アソシエイト校」として、取組を充実させる。地域との連携により、主体的に課題を設定し解決する資質・能力を育成することで、地域貢献意識を高める。	【方策 44】生徒と自治体とが連携した防災訓練を実施し、防災意識を高めるとともに「共助」に対する理解を深める。 【方策 45】生徒の地域行事の参加や近隣の学校、市役所等との連携を進め、地域の取組の理解や課題発見力を養う。また、参加することによって自己有用感を培う。
8 学校経営・組織体 【目標 28】組織的な学校経営を推進するために、全教員の情報共有を徹底する。また、業務の効率化を推進したり、都の制度活用を周知したりすることでライフ・ワーク・バランスの推進を図る。 【目標 29】体罰、セクシャルハラスメント、個人情報保護等の服務事故ゼロの校内体制を構築、維持するとともに、校内研修の実施や、企画調整会議等のレジュメによる教職員の意識啓発、事故未然防止を徹底する。 【目標 30】学校運営連絡協議会の機能を活用し、保護者、同窓会、地域等の意見・要望を学校経営に積極的に反映させてより良い学校経営を目指す。 【目標 31】図書館運営委員会が中心となり学校図書館専門員の専門性を生かし、利用の促進を工夫し、生徒が本に親しむ環境を一層推進する。 【目標 32】経営企画室職員が、経営参画の意識を持ち特に、学習活動に係る予算を中心に必要な品目を重点的に予算配分し、計画的・効果的に執行することで予算の有効活用を進める。 【目標 33】施設・設備・備品を適正に管理し、有効に活用する。 【目標 34】授業料・学校徴収金について経営企画室と教員が連携し、収納及び執行管理を行う。また、公的支援に関して、確実な周知と適切な対応を行う。	【方策 46★】各教職員が役割を責任もって遂行することで協働が進み「チーム小川」として機能すること、情報や経験の共有化と業務の在り方を検討し、効率的な仕事の進め方を工夫することで、働き方改革に取り組む。また、改善に関する教職員からの積極的な意見を吸い上げ、検討し具体化する。 【方策 47★】体罰、セクハラ、個人情報保護など、具体的な事例を取り上げながら、教員面接や校内研修、日常の観察や声掛け等で服務意識の徹底を図る。 【方策 48】OJT ガイドライン等で、職層に応じた役割を明示し理解することで実践につなげる。自己点検や面接により課題の明確化を図る。職層に応じた役割分担を行い、組織的で計画的な人材育成を行う。 【方策 49★】服務事故防止研修、経営企画室職員による事務手続等の研修を確実に実施することで、事故未然防止につなげる。 【方策 50】学校評価アンケートで、保護者・地域からの回収率を高め学校経営に十分反映させる。 【方策 51】司書教諭、学校図書館専門員の指導のもと、生徒が主体的に運営に関わり、活用しやすい図書館を目指す。また、教科指導やキャリア教育、特別活動など図書館利用を促進する。 【方策 52】「図書貸借システム施行校」としての経験を、全都的な取組につなげるべく発信し、更なる図書館活用の推進を目指して取り組む。 【方策 53】経営企画室と分掌・教科・部活動の連携を密にし、予算編成・執行を行う。センター執行分の落差金を有効活用し、物品等を充実させる。 【方策 54】施設・設備の点検を強化し、安全確保や美化・衛生に努めるとともに、サポートを必要とする生徒など、生徒が安心・安全な生活が送れる環境整備に取り組む。 【方策 55】学校徴収金については、「学校徴収金基本計画」に基づき、計画的かつ適正な予算執行をする。納入状況を迅速に把握し、未納者に対しては迅速な督促を行い、早期納入に努める。 【方策 56】学年と連携して、就学支援金・給付型奨学金・多子世帯における授業料等支援事業等の制度について周知し、申請書類の確実な回収を図る。

IV数値目標

令和6年度 数値目標	令和5年度結果
1 学習指導 ①長期休業中講習 60 講座以上 ②チャイム着席の励行 100% ③家庭学習時間 1 日 30 分以上の生徒 70%以上 ④英検準会場実施 1 回・英検 2 級・準 2 級合格者数 80 人以上 漢字検定等各種検定受験の促進 ⑤相互授業見学 年間 3 回以上（教科内外）100% ⑥「教材や教え方の工夫がされている」90%以上 ⑦思考力・判断力・表現力を育てる授業の実践 90%以上 ⑧授業満足度 90%以上 ⑨「総合的な探究の時間」は、「自己や人間関係を考えるきっかけとなった」80%以上 ⑩「自分の将来を考えるようになった」80%以上 ⑪月 2 冊以上本を読む生徒 20%以上 ⑫他校との交流会 1 回以上 ⑬ビブリオバトルの実施	① 63 講座 ② 87% ③ 60% ④ 60 人 ⑤ 目標 2 回 ⑥ 81% ⑦ 87% ⑧ 84% ⑨ 74% ⑩ 73% ⑪ 18% ⑫ 1 回（成瀬高校） ⑬参加・国語授業の取組
2 生活指導 ①遅刻者数 クラス月平均 1.5 人以下 ②「学校の規則を守っている」100% ③「時間の管理ができています」95% ④「挨拶ができています」95%以上 ⑤「情報モラルを理解している」	① 延べ 4406 件 ② 94% ③ 87% ④ 93% ⑤ 96%
3 特別活動・部活動 ①「部活動加入率」80% ②「学校行事を通して、精神的に成長したり、協調性や団結力が育まれている」95% ③「自発的・自治的な活動が展開されている」90%以上 ④体罰ゼロ	① 76.5% ② 92% ③ 91% ④ ゼロ
4 健康づくり ①生徒支援委員会開催 月 1 回 ②特別支援に係る研修 年 1 回 ③センター校との連携 1 回以上 ④「生徒の悩みに適切に対応している」90% ⑤「いじめをなくすために積極的に取り組んでいる」100%	① 年間 6 回 ② なし ③ 1 回 ④ 86% ⑤ 86%
5 進路指導 ①1 年二者面談 2 回 ②2 年二者面談 2 回 三者面談 1 回 ③3 年二者面談 2 回 三者面談 1 回 ④進路希望達成率 90%以上 ⑤「進路関係の資料や進路講話などは充実している」95%以上 ⑥「進路指導は 1 学年から計画的に行われている」90%以上 ⑦進路に係る分析会・校内研修 3 回以上 ⑧共通テスト受験者 100 名以上	④ 92% ⑤ 92% ⑥ 89% ⑦ 学年ごとの実施等 ⑧ 89 名
6 募集・広報活動 ①ホームページの更新 ②学力検査応募倍率 1.40 倍 ③学校見学会・説明会中学生参加者名 3000 名 ④塾訪問を実施。塾説明会の実施	①システム変更で比較不可 ② 1.21 倍 ③ 2705 名 ④ 塾訪問実施。 塾説明会 1 回
7 地域交流等 ①「地域との連携に協力的」95%	① 94%
8 学校運営・組織体制 ①服務事故ゼロ 給与等支給明細電子化 7 月末までに 100% ②センター執行率 60% ③学校徴収金未納者 0 人	①給与明細電子化 43% ② 57.9% ③ 1 人